

小児外科

診療科の概要

当センターが1981年に周産期センターとして開設されたと同時に新生児外科の専門科として診療を開始しました。1991年に小児医療部門が増設されてからは、あらゆる年齢層のお子さんを対象に小児外科診療を行っています。関連各科と緊密に連携しながら、先天性横隔膜ヘルニアなど出生前診断された新生児外科疾患や、直腸肛門奇形、胆道閉鎖症やヒルシュブルング病を始めとする各種消化器疾患、集学的治療における小児がん外科治療、急性虫垂炎などの小児救急疾患などに力を注いでいます。また、日帰り手術や内視鏡手術など、患者さんおよびご家族のQOLと利便性の向上を目指し、常に患児の健やかな将来を見据えた外科診療を追求しています。

主な対象疾患

- ◎低出生体重児に特有な疾患
壊死性腸炎、胎便関連性腸閉塞症、限局性腸穿孔
- ◎新生児呼吸器疾患
先天性横隔膜ヘルニア、先天性嚢胞性肺疾患(CPAM、肺分画症、気管支閉鎖症)
- ◎新生児消化器疾患
先天性食道閉鎖症、十二指腸閉鎖症、小腸閉鎖症、ヒルシュブルング病、胎便性腹膜炎、腸回転異常症、直腸肛門奇形(鎖肛)
- ◎新生児腹壁形成異常
腹壁破裂、臍帯ヘルニア
- ◎消化器疾患
急性虫垂炎、肥厚性幽門狭窄症、胃食道逆流症、慢性便秘、短腸症候群、ヒルシュブルング病類縁疾患
- ◎呼吸器疾患
漏斗胸、気胸、先天性気管狭窄症、声門下腔狭窄症、嚢胞性肺疾患、肺分画症
- ◎肝・胆・膵疾患
胆道閉鎖症、胆道拡張症、膵胆管合流異常症、胆石症
- ◎悪性固形腫瘍
神経芽腫、肝芽腫、ウィルムス腫瘍、横紋筋肉腫、肺芽腫
- ◎体表奇形・良性腫瘍
血管腫・血管奇形、リンパ管奇形、奇形腫(悪性含む)
- ◎その他日常疾患
鼠径ヘルニアおよび類縁疾患、臍ヘルニア、正中頸嚢胞・瘻、側頸嚢胞・瘻、痔瘻および類縁疾患

主な検査

画像検査：超音波、CT、MRI、RI、消化管造影
内視鏡検査：気管支鏡、消化管内視鏡、胸腔鏡・腹腔鏡を用いた検査
消化管機能検査：直腸肛門内圧検査、胃食道PHモニタリング、直腸粘膜生検



診療実績(2022年)

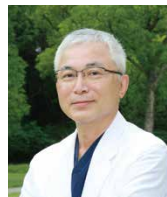
- ・初診患者数：701名
- ・入院(退院)患者数：416名
- ・総手術件数：488件
- ・新生児外科症例数：62件
- ・胎児診断症例数：41件
- ・新生児手術件数：42件
- ・鏡視下手術件数：200件



診療科からのお知らせ

小児外科では

- ・内視鏡下手術や傷跡が目立たない手術を積極的に行っています。
- ・患者さまや紹介医師に対して、丁寧な説明を心がけています。
- ・外科的救急疾患を積極的に取り扱っています。
- ・気管や肺など呼吸器外科疾患も積極的に取り扱っています。



副院長(兼)主任部長
白井 規朗



副部長
銭谷 昌弘



医長
梅田 聡



医長
松浦 玲



医長
野口 侑記



医員
吉田 真之



医員
竹村 理璃子



医員
堺 大地